

## 「まちなかキャンパス」

趣旨や背景：

大学の地域貢献が言われているがせいぜい講座への市民参加にとどまり、逆に停滞を見せ始めている。もっと大学が地域へ、を痛感している。そこで地学協働の典型例を提案する。

内容：

名称を「まちなかキャンパス」とする。その中身は次の通りである。

- 1 大学の公開講座を地域連携で行なうこととする。
- 2 地域の中の施設を活用する。
- 3 地域活動者にも講師になってもらう。
- 4 例えば「商いと賑わいづくり」など地域をテーマにした公開講座とする。
- 5 社会人と大学生との交流の場としても活用を図る。

メリット：

まちのどこが問題なのか、将来に向け何が不安なのかなど諸課題が地域内共有される。

- 1 議論が活発化し、小さくとも具体的な解決効果が期待できる。
- 2 講座後も連帯の輪ができ、将来に繋がってゆく。
- 3 場合によっては公共施設のあり方、適正配置など行政への具体的提案もできるなど、きめ細かなまちづくりにつながる。